

幼稚園 年長組 保育マップ型記録を利用した、番組視聴における「しかけ」の設定  
～「しぜんとあそぼ」の視聴から翌日以降につながる遊び～

旭川宝田学園めいほう幼稚園 山本 健太

【実践報告の概要】

幼稚園の放送教育では、子どもの興味や関心を予測して活動を発展させる「しかけ（環境設定）」が展開される。本実践では毎日の保育を連続したものと捉え、視聴の翌日以降にも遊びや活動が繋がることをねらって保育を展開していく。さらに、翌日以降も「しかけ」を設定するようにした。視聴当日の子どもの姿や遊びを読み取り、効果的な「しかけ」を設定するために、視聴日の放課後に保育マップ型記録を用いて活動を記録していく。

【取組の具体】

幼稚園 年長組 「しぜんとあそぼ -いのしし-」

1. 番組の視聴と振り返り

- ・ 15分の番組を全体視聴する。
- ・ 番組を見た感想や疑問を伝え合うことで、知識や情報を深める。

2. 遊びと振り返り

- ・ 保育室で自由に遊ぶ時間をとる。番組から刺激を受けて遊ぶ子どもが多い。

「いのしし」の放送回では、いのししの制作、制作したいのししで遊ぶための川や草の制作、自身がいのししになりきる、図鑑などで調べるといった遊びをする姿が見られた。

- ・ 遊びの終わりに全員で集まり、遊んだ内容を伝え合う。図鑑で調べた子どもは、調べたことを発表する。

3. 記録の記入

- ・ 放課後に保育の記録を書く。2種類の記録（視聴記録と保育マップ型記録）を使用する。



4. 「しかけ」の選択と準備

- ・ 記録と遊びの読み取りから、翌日以降につながる「しかけ」を考えて準備する。

5. 翌日以降の遊び

- ・ 昨日までの遊びの続きや、保育者による「しかけ」から遊びを発展させていく。
- いのししの放送回では、関連動画の視聴、動物園への園外保育、崖の制作と上って遊ぶ姿が見られた。

【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組「しぜんとあそぼ」

- 身近な自然に対しても、自分たちの地域にはない自然に対しても、深い興味や関心をもつことができる。身近な自然に関しては、実際に探したり見に行ったりすることができるため、保育室に収まらない体験活動ができる。
- 視聴後の関連する遊びや活動の選択肢が多い。例えば作る・なりきる・調べる・実際に見に行くなど。過去に視聴後に動物園へ見学に行くこともあった。

【本実践における工夫点】

保育マップ型記録

遊びの展開を中心に保育室全体の様子を書き、それぞれの遊びが翌日発展していくための準備を考えていく。準備の例としては制作材料を置く、看板や門を作って置いておく、関連する動画を探す、などがある。

「しかけ」の設定

「しかけ」とは、子どもの遊びや活動が発展していったり、子どものアイデアが生まれやすくなったりする環境の工夫のことで、環境設定や子どもへの刺激、とも呼ばれる。制作材料や制作物などの物的環境だけでなく、保育者の声かけや援助などの人的環境も含まれる。保育マップ型記録で子どもの姿や遊びの展開を読み取り、翌日の遊びにつながる「しかけ」を考え、準備をして設定する。

【本実践の成果○と課題●】

- 保育マップ型記録を書くことで遊びを中心とした視点で読み取りができ、翌日に予想される遊びの流れや発展の可能性が見えやすくなった。
- 翌日までに記録を書いた上で「しかけ」の準備をしなければならなかったため、放課後が慌ただしくなってしまう。しかし、子どもたちの遊びを止めるわけにはいかず、また「しかけ」を数日経ってから設置するのでは効果が薄くなってしまう。